

萩 ネットワーク

第 54 号 2003 年 11 月

発行：萩ネットワーク協会

〒 758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

- 常設展示 萩を特徴づける自然、城下町、明治維新を主テーマに実物資料・模型・レプリカ・映像などで展開
- 町並みウォークスルー CG再現映像などで萩の町並みの現在、過去、未来を歩き、「まちじゅう博物館」の魅力を再発見
- 展示劇 維新の先達・吉田松陰を主テーマに資料・映像・音響を駆使して、150インチ大画面でダイナミックに紹介
- 高杉晋作の遺品を展示 晋作の愛用した道中三味線、初着、上海土産、書簡、奇兵隊軍旗など
- 萩学なんでもBOX 萩の情報がたくさん詰まった、触って楽しむ体験型展示物
- 特別展「毛利輝元と萩開府」(仮) 11月11日～12月10日

来年 11 月オープン

新博物館



目次

11・12月のイベント	P2
河村建夫文部科学大臣	P3
新博物館の建築工事完成	P3
定年退職で帰萩 [楊井昭夫]、[松村健夫]	P4～5
ズームアップ [村木清]	P5
佐村秀典 (福栄村)、[勝手ご膳]	P6
富永竜也 (阿武町)、萩発句の味覚 [萩のマフグ]	P7
紙上ショッピング (お歳暮情報)	P8
同窓会だより	P9

メールボックス (会員便り)	P9
合併協議会の動き	P10
萩国際大学学生募集、大学祭	P10
陶芸大リーグ、阿武教子金メダル	P11
夢追人 [萩城下町盛り上げ隊]	P12
坂高麗左衛門展、美術館だより	P13
情報アラカルト	P14～15
萩・文学散歩	P15
大野毛利家と屋敷地の変遷	P16

来年の萩開府400年に向けて、

プレイベントが盛りだくさん

萩時代まつり

メインとなる「萩時代パレード」には、「生雲八幡宮奴道中」など例年とは異なる行列も特別参加し、壮大な時代絵巻を繰り広げます。

■萩大名行列・萩時代パレード

とき 11月9日(日)

○岩国藩鉄砲隊実演・萩民踊「男なら」披露(午前10時)

○岩国藩鉄砲隊パレード(午前11時)

○岩国藩鉄砲隊パレード(午前11時)

○岩国藩鉄砲隊実演(午前11時30分)

○萩市民球場

○萩時代パレード(正午)

萩広域ふるさとまつり

平成16年度中の合併を控え、萩・阿武地区の1市3町4村が新たな萩市民だという意味を込め、昨年同様「みんなでひとつ萩広域」をテーマに開催されます。

とき 11月8日(土)～9日(日)

○萩市役所周辺

【8日(土)】大もちまき大会(午後0時15分)、市町村バラエティショー

【9日(日)】萩市伝説舞踏芸術団(午前10時15分)、市町村対抗カラオケのど自慢大会(午後1時30分)

【8日、9日】各種物産販売(午前10時)

問い合わせ 萩広域ふるさとまつり実行委員会(0838・22・3803)

【9日(日)】萩市伝説舞踏芸術団(午前10時15分)、市町村対抗カラオケのど自慢大会(午後1時30分)

【8日、9日】各種物産販売(午前10時)

問い合わせ 萩市企画課(0838・25・5119)

萩・大名行列

「江戸天下祭」派遣

江戸開府400年記念事業である「江戸天下祭」に萩・大名行列平安古備組を派遣し、来年の萩開府400年を全国に発信します。

とき 11月24日(月・祝) 午後2時～4時

ところ 日比谷シャンテ～晴海通り丸の内仲通り～行幸通り

萩市まちじゅう

博物館シンポジウム

とき 11月11日(火) 午後6時30分～9時

ところ サンライフ萩

内容

○基調講演「エコミュージアムによる近世都市遺産の保存と活用」

講師 吉兼秀夫(阪南大学教授)

○パネルディスカッション

パネリスト 吉兼秀夫教授、中村徹也(山口県埋蔵文化センター所長)、野村興児萩市長

コーディネーター 西山徳明(九州大学助教授)

入場料 無料

問い合わせ 萩市企画課(0838・25・5119)

第4回 維新の里 萩城下町 マラソン

全国から集まった

選手達にご声援を！

全国各地から2000人を超えるランナーが参加し、ハーフマラソンなど5種目で健脚を競います。温かい声援をお願いします。

とき 12月14日(日) 午前8時～(受付開始)、午前9時～(開始式)

ところ 萩スタジアム(受付)

種目

■ハーフマラソンの部(午前10時～、21・0975km)

コース 萩ウェルネスパーク～指月公園折り返し

■ファミリーの部(午前10時5分～、2km)

■10kmの部(午前10時15分～)

■5kmの部(午前10時25分～)

■2kmの部(午前10時30分～)

問い合わせ 維新の里萩城下町マラソン大会実行委員会事務局(0838・25・5119)



河村建夫代議士、文部科学大臣就任

9月に発足した第2次小泉内閣で、河村建夫衆議院議員（60）が文部科学相に就任しました。萩市からの入閣は、昭和55年（1980）7月の田中龍夫氏が鈴木内閣で文部相になって以来23年ぶり。東京指月会第36回大会（10月18日）に、河村建夫氏が寄せた「文部科学大臣に就任して・・・」から抜粋して紹介します。

松陰先生の精神で、教育改革に取り組む

「君の専門分野だ、しっかり頼むぞ、吉田松陰だぞ」9月22日、小泉総理はそう言いつて、文部科学大臣就任に際しての指示書を私に手渡しました。

平成2年（1990）、初当選以来13年余、文教一筋に、自民

党・文教部会長、文部総括政務次官、衆議院議員文部科学常任委員長、そして2度目の文部科学副大臣と、日本の文教、科学政策に進んで来ました。そのことが評価されたのかなあ：とうれしい思いです。しかも総理から、吉田松陰先生の名前が出たとき、萩の出身であることに大きな誇りを感じました。（略）

松陰先生のお墓の隣に、吉田庫三くさうの墓に気づかれた方は少ないと思います。実は、この方は、松陰先生の甥子で、小泉総理の出身校、神奈川県立横須賀高校（正しくは旧制中学校）の初代校長先生なのです。私は、総理の「松陰だぞ」の呼びかけに、組閣本部、安部新幹事長他、与党の幹部勢揃いの中で、このことを説明し、一度お参りくださいと言いました。組閣本部の緊張あふれる雰囲気が一瞬やわらぎました。

萩市新博物館完成

新博物館は堀内地区の旧市民病院跡地に昨年7月から建築工事を開始、博物館本館棟が9月末に完成しました。本館周辺の長屋門、隅矢倉、長屋は今春完成しており、本館棟の完成で建物が完成しました。11月10日には竣工式を行い、今後は外溝工事、展示工事、駐車場整備などを進め、萩開府400年を記念して来年11月11日に開館の予定です。

本館棟は鉄筋コンクリート造り一部二階建て。いぶし銀色の瓦や軒先には木材を使用し、外壁はしつくい壁、なまこ壁、杉板下見板張り壁とし、武家屋敷の趣を演出しています。

室内には、阿武川流域材を多用しており、「エントランスホール」では大きな柱と桁で構成された大空間が来館者を迎えます。



博物館本館棟（室内に入るとエントランスホール）



隅矢倉

展示室は「常設展示室」2室と「企画展示室」、「特別展示室」の計4室（計1000m）があります。このうち「特別展示室」には、高杉家から寄託を受けた高杉晋作の遺品を中心とした資料が展示される予定です。このほか、100人収容の「講座室」や、瓦屋根が14m動く可動式の屋根を設置した「天体観測室」があります。



天体観測室



長屋門

新博物館は、「まちじゅう博物館」の中核的施設として整備され、萩にかかわりのある事柄などについて、様々な分野から総合的に調査研究を行い、データの蓄積や発信を行うなど「萩学」のセンター的役割を担います。

お 帰 り な さ い

今年になって故郷“萩”に戻られた方の中から、広島からUターンされた楊井昭夫さんと
名古屋からUターンされた松浦健夫さんにお話をお聞きました。

J Rグループに40年勤務 この8月、萩に帰郷



楊井昭夫氏
(萩市江向在住 昭和13年生まれ)

父親の勤務の関係で、生まれは神戸ですが、5歳の時から萩高卒業までを萩で過ごしました。大学は法政大学の社会学部に進み、昭和37年に国鉄に入社。主に輸送業務が専門、広島・下関・山口・小郡と中国地区を中心に仕事をしてきました。山口鉄道部長を最後に56歳でJRを退職、時刻表や旅の手帖などを出版するJR関連企業の弘済出版社の取締役中国支社長を経て、ホテルグランピア広島の常勤監査役に。そして、今年退任、8月に40年以上離れていた故郷・萩に戻りました。

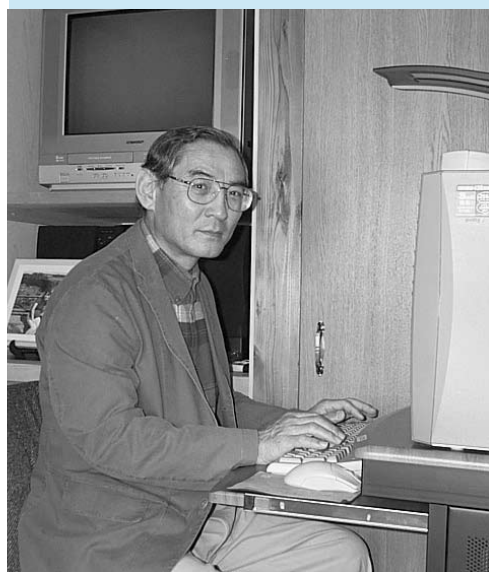
J R時代で一番思い出に残る仕事は、昭和50年、山陽新幹線開業当時の臨時列車の運行計画。少ない車両と乗務員をやり繰りして苦

勞したことを印象深く覚えています。駅員も少なかつたので、自ら

はそれから開放され、まさに肩の荷が降りたという感じです。

8月に戻って、自宅の整理や、庭や畑の手入れに明け暮れる毎日ですが、時間を見つけては自転車や徒歩で、懐かしい萩の町を探訪しています。もちろん、子供の頃に過ごした萩そのままという訳にはいきませんが、かなり良い状態で自然や町並みなどが残っているという印象です。外から見ていた頃の萩は、「高度成長から取り残された町」という、どちらかと言えばマイナスのイメージでしたが、その後の平成バブルにも乗ることなく、良いものがそのまま残っているという感じがしています。天気の良い日には自宅裏の橋本川で魚釣りをしたり、友人と囲碁を打ったり、自宅の整理がひと段落したら、しばらくは趣味三昧

もう一度、上っ面でない 本当の萩を再発見したい



松浦健夫氏
(萩市江向在住 昭和18年生まれ)

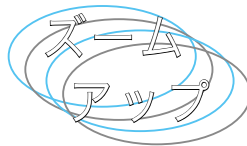
今年の5月、ちょうど還暦の歳に萩に帰郷しました。明倫小・一中・萩高と子供時代を萩で過ごし、関西学院大学(経済)に進学。卒業は昭和42年、ちょうどその頃は就職難でしたが、業界分野ごとにその道のトップの会社をピックアップし、産業用刃物のトップメーカー・東洋刃物(株)に就職。大正14年に東北大学との産学共同で設立された動力用刃物の総合メーカーです。

入社以来営業一筋で、勤務地も本社のある仙台はもちろん広島、大阪、東京、名古屋と、全国の主要都市で、たくさんのお得意先との出会いに恵まれました。既製の動力用刃物売り込むという単純な営業ではなく、お得意様の生産現場のニーズを細かくキャッチし、お得意様と一緒に考えて、

江向にある自宅のリフォームや庭の手入れもようやく一段落したところでは、

萩にも戻ったらやりたい事が3つありました。一つ目は、旨い萩の干物を七輪で焼いて食べることに。2つ目は橋本川でハゼやセイゴ釣り、そして海にも出たい。3つ目は、萩の再発見。萩では高校までしか過ごしていませんので、その当時の視線から見た萩は薄っぺらなもの。今、もう一度、上っ面でない本当の萩を再発見したいと、夕方になると家内と一緒に散歩がてら町を歩いています。それに見れば指月山、東を見れば田床山、この穏やかな風景には、心が癒されます。現役時代は正直、時間の余裕がない生活でしたが、これからはたっぷり時間があります。先

※連載中の「萩400年の物語」(北村知紀)は筆者の都合により、当分の間休載します。



福岡教育大学名誉教授 九州指月会副会長 村木 清 氏

(福岡県在住、昭和32年秋高卒)

日々是好日

私の近況

平成13年に定年退職し、時間に拘束されない生活になって2年が経ち、これまでの生き方を振り返る余裕ができました。かつては効



お客様の「尻押し」までしていました。JR時代そしてホテル勤務の頃も、絶えず事故の心配とか火災の心配など、責任という重圧が肩に押し掛かる毎日でしたが、今

の生活を満喫したいと思っています。また、地元のボランティアに参加したり、故郷のためにいろんな活動にも参加していきたいと考えています。

率や合理性を求めて走ってきましたが、大学も来年度から独立行政法人に移行して研究面でも厳しい業績評価が待っており、世知辛くなってきました。いい時に退官されたらと現役がうらやましがっていました。これからは身の丈にあった「日々是好日」といきたい。

時に、暇を見つけては萩に帰り、雑木林になった夏みかん園を整地・開墾して、どんな果樹や作物がこの風土に適しているのか資料集めや開園準備に奔走しているところです。「桃栗三年柿八年」というから、残された時間が多くないことを自覚しながら、ゆっくりと焦りながら取り組んでいます。

萩の思い出

有料道路の料金所を出ると、見慣れた指月山が目飛び込んでくる。ほっとする瞬間で、友人の顔や萩での思いが頭をよぎる一瞬でもあります。

夏みかん農家の長男として香川

工夫を重ね、工程にベストマッチの刃物を供給していく、そんな毎日の連続でした。36年間勤め、この5月に定年退職、学生時代を含めて40年ぶりに故郷にUターン。

津に生まれ、跡取りとして期待されていました。機械のない時代で、人手に頼る作業ばかりで、子供といえども当てにされた労働力でした。子供心になんとか抜け出す方法とは思いついていたことが昨日のように思われます。また途中で投げだそうとすると、祖母から

「為せば成る、為さぬは・」と呪文を掛けられていましたが、今思えば辛抱や成就感を教えられ、我が人生のバックボーンになっています。夏みかんの収入で期待どおり農学部を卒業したのですが、折しも農産物の自由化でオレンジが輸入され、夏柑農家は壊滅的な打撃を受けました。このことが我が人生のターニングポイントになったように思います。それ以来グレイフルーツは食べないことにしています。

萩への一言

美しい景観を備えた萩は誇りでもあります。20世紀の合理化の波

日募集のあった新博物館のボランティアスタッフにも応募、町づくりのお役にたちながら、萩の再発見ができればと考えています。

に翻弄されることなく歴史のたたずまいを保ってきました。21世紀にも残したい町並みです。市街地から田舎に行くと農地の放棄が目立ち、農村の台所は必ずしも豊かではないように思えてきます。効率的な産業のない萩では、第一次産業の低迷が地域経済の足かせになっているのでしょうか。特に農漁業の振興が待たれますが、食の安全性や消費需要の多様化等から、いろいろな対応策があるのではないのでしょうか。広域化した流通の見直しや地産地消で人とのつながりの促進等もその一つになるかもしれません。

■プロフィール

昭和32年秋高校卒業、昭和36年鳥取大学農学部卒、山口県立奈古高校、九大大学院、九大助手、福岡教育大学講師、同59年教授(農学博士)、平成13年定年退職、同名誉教授 元付属小倉中学校長併任、前日本農業教育学会副会長

経営指導員として
福栄村に着任



福栄村商工会 経営指導員

富永 竜也 氏(34歳)
(阿武郡福栄村在住)

◇プロフィール

宇部市生まれ

明治学院大学法学部卒

福栄村商工会に経営指導員として勤務

特産品開発に
どっぴり漬かる

平成9年に商工会が中心となつて県の「むらおこし事業」を導入

出身は宇部市で高校まで地元で過ごし、大学は東京の明治学院大(法学部)に進みました。卒業後、大手不動産の「地産」に入社しましたが、父の体調の関係で宇部にUターン、地元の本ベンチャー企業に勤務。その頃、地元宇部の商店街青年部等での活動を通じて「まちづくり」に強く興味を持ちました。運よく商工会経営指導員の募集があり合格、平成9年に福栄村商工会に経営指導員として着任しました。ちょうどその年は、福栄村に道の駅「ハビネスふくえ」が開業、村おこしの新しい拠点施設として、地域の期待が高まっていた時期でした。

「ニッポン全国むらおこし展」
中小企業長官賞を受賞

入、この村ならではの特産品を開発することで、地域振興をはかることが狙いです。福栄村は人口2600人の村、経営指導員といつても、それほど企業があるわけではありませんので、この6年間、「むらおこし事業」にどっぴり漬かったという感じです。最初の頃は、やはり他所者ということ、なかなか受け入れてもらえませんでした。特産品開発グループの会合に積極的に出かけて、関連する村中のいろんな方と話すうちに、気持ちに通じ合ってきた実感がありました。あくまで、主役は村の住民、自分は黒子に徹し、会議ではグループの皆さんの意見を引き出すことに注力、また、面倒でつらい作業はすすんで一緒に汗を流す、そのやり方が受け入れてもらえたようです。

この「むらおこし事業」の成果としては、平成12年10月に、「中四国むらおこし展」で行われた特産品コンテストでハーブソーセージ・ハムなどの鶏肉加工品「香福鶏」が3位のグランプリ銅賞を獲得、その翌月の全国商工会連合会主催「ニッポン全国むらおこし展」食品部門では、第1位の中小企業庁長官賞を受賞。この受賞が大きくマスコミ報道され、「香福鶏」は一躍人気商品となりました。その後開発された果物や野菜をそのままの形で炭に加工した花炭「お炭つき」も全国ネットのTV番組に取り上げられ、注文の電話が殺到するという状況に大変驚いたものです。

商品の売上が上がる喜びもさることながら、特産品開発に関わる村のメンバーが、自分たちの活動に自信をもって、ますます元気に積極的になっていく姿を、本当に嬉しく感じました。

この1月には特産品開発グループの中心メンバー7名が「福の里企業組合」を設立、法人化して、さらに本格的な特産品づくりに拍車が掛かる勢いです。再来年の萩市との広域合併で行政地区としての「福栄」の名前はなくなってしまうますが、村の人たちが作り出したユニークな特産品によって、地域のカラをいつまでも残していけたらと考えています。

道の駅・萩しーまーと

「勝手ご膳」
サービス開始!

新鮮な日本海の海の幸を生産者価格で直売する「道の駅・萩しーまーと」(萩市椿東)では、館内鮮魚売場でお客様自身が購入した魚貝類を、館内の和食レストランに持ち込み、お好みの調理法で召上って頂くBYO(Bring Your Own)方式を、今秋よりサービス開始しました。お客様が素材と料理法を勝手に選んで、オーダーメイドスタイルで食べることから、その名も「勝手ご膳」。

漁港隣接で、萩沖で水揚げされる常時40種類以上の豊かな海の幸を、格安にて提供できる同駅の強みを生かしたオリジナルな方式。この方式は、全国的にも実施しているところは数少なく、全国700余箇所ある道の駅でも、「萩しーまーと」のみの希少なサービスとなっています。人気の魚種は、活きイカ・アマダイ・マダイ・ヒラマサ・ヨコワなど、貝類ではサザエとアワビ。調理した後のアラも潮汁や兜煮などで召し上がるお客様がほとんど。

好きなお魚を、お好みの調理法で。

勝手ご膳

鮮魚売場でお買求めの魚貝類は(バック売は除く)館内の和食レストラン「浜料理ががん」にてお好みの料理に調理して召上れます。

調理代金 (調理法は1グループ3種類まで)

1名様あたり **500円** (税別・小学生以下は300円)

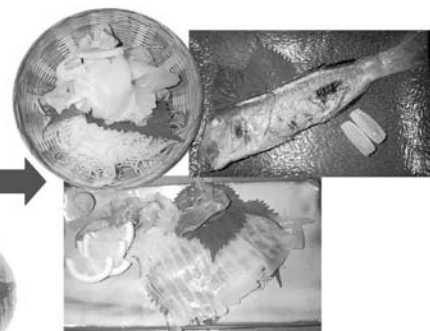
【一魚種一料理法のみの場合、1名様あたり300円】

調理法⇒網焼き(セルフ)・刺身・煮付け・唐揚げ・アラ煮・潮汁

昼食時間帯のみ(11:00~14:30)

【席数20席限定】お席の空きを確認の上、素材をお買求めください。

お好みの魚介を



お好みの調理法で。

2003年11月(第54号)

山口県第1号の「むらまち交流ステーション」



道の駅阿武町
むらまち交流ステーション

佐村 秀典 氏(40歳)

◇プロフィール

阿武町生まれ

萩高校から大阪の大学を卒業後、阿武町役場に。グリーンツーリズム・コーディネーター（財団法人都市農山漁村活性化機構認定）

グリーンツーリズムは18年前から始めていた。

「道の駅阿武町」は、全国道の駅の発祥の駅です。昨年6月、道の駅地内に「発祥交流館」がオープン、さらに、この3月には山口県第1号の「むらまち交流ステーション」となりました。

役場での最初の仕事が公民館の担当でした。18年前の話ですが、阿武町農村青年協議会という組織があった、「この田舎をどうPRするのか」「田舎であることを逆手にとって、その田舎の良さをストリートにPRしていこう」といったような議論をし、たとえば農業まつりに都市の人にスタッフとして参加してもらったり、農家ホームステイを実施したり、田舎マップを作ったり、いろいろと活動していました。その後、税務課に異動になり、3年前から道の駅地内に発祥交流館を整備するための計画・運営を担当しています。

「グリーンツーリズム」、正直言って漠然としたイメージしかありませんでした。昨年10月に受講した財団法人・都市農山漁村活性化機構のツーリズムスクールで、ようやくピンと来ました。要するに、18年前から一生懸命夜を徹して議論し、町内で実施してきた参加型のイベントや、自然体験プログラムがグリーンツーリズム、「なんだ、今、自分たちの町でやっていることではないか」と。

インストラクターの認定を得た後、上級資格の養成講座に参加、グリーンツーリズム・コーディネーターの認定を受け、そこで得た知識や技術を仕事に発揮しています。幸いこの分野への取り組みが早かった町なので林業振興会のメンバーなど、グリーンツーリズムのプロは町内に沢山おられます。自分の役割は舞台となる自然やそ

の道の名人たちを、都市部の人々につないでいくことです。

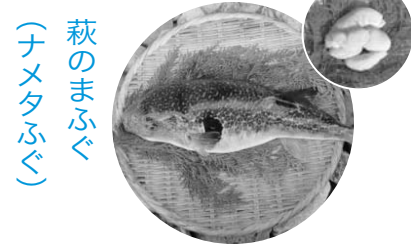
「交流の笑顔がステキ」を合言葉に

先日、「小菊のフラワーアレンジメント」のプログラムを実施しました。通常では材料が用意されていますが、わが町では畑で小菊を採取するところから始まり、自然相手なので雨も降ります、でも合羽一枚あればすむ話なんです。また、それが本当の自然体験だと思っています。今年だけでも通算で30件以上のプログラムを実施しました。また「むらまち交流」と題して、同じ町内で山手の人が、海手の人を招いてのタケノコ掘体験や、その逆のモズク採取体験などもやっており、町内同士の交流も盛んになってきました。これらのプログラムも充分、都市部の人たちにも喜んでもらえるプログラムになり得ます。

それにしても、これらの活動を通して、つくづく「人が大事」ということを感じます。どんなに素晴らしいプログラムであっても、それに関わるスタッフの人間性という人が柄が、参加者の満足度ははつきりと左右します。「交流の笑顔がステキ」を合言葉に、スタッフも参加者も一緒になって楽しめる、そんなプログラム運営を目指していきたいと思っています。

※珍味、マフグの白子

萩発 旬の味便り



●真のふぐ、「マフグ」

朝晩冷え込みを感じる季節になると登場するのが、カナトフグ（標準和名シロサバフグ）庶民のフグとして鍋や唐揚げ食べますが、やはり王者トラフグと比べると、味も食感も多少劣ります。一方、12月〜翌年3月頃まで萩に水揚げされるのがマフグ、地元では「ナメタフグ」と呼ばれています。こちらは隠れた実力派。実際、筆者も先シーズンに食べ比べをしてみました。が、てっさにしても鍋にしても味・食感ともトラフグと比べて全く遜色無し。漁獲量も多く、価格は何とトラフグの3分の1程度と格安、しかも全体の5割近くが韓国に輸出されている状況。こんな美味しいフグが、正當に評価されていないことを悲しく感じています。

●味・食感ともトラフグと比べて遜色無し

萩では主に越ヶ浜地区を中心と

した延縄漁船でマフグを漁獲。冬になって産卵のために日本海を下ってくる群れを、数百メートルもの長い延縄で釣り上げ、活魚のまま港に水揚げします。もちろん全て天然物、鮮度も抜群です。前述の通り、薄造りのコリコリした食感とほんのり甘い味はトラフグに迫る感じ。また鍋にしたときの歯を押し返すような弾力とフグ独特の味わい、これもなかなか区別が難しいほど。そして白子、炭火で塩焼きにして食べたあの味は忘れられません。唯一の欠点は、皮に毒があるとされ、湯引きを食べられないことでしょうか。

●お勧めレシピは、薄造りと鍋、唐揚げも。

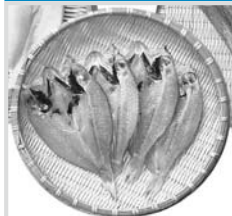
なかなか市場に出回らない魚種ですが、年末あたりから春先にかけてのシーズンに、地元のお魚屋さん、みかぎ（毒のある内臓部や皮を除いた）の状態で並ぶことがあります。なるべく大型がお勧めですが、小型のものでも味噌汁や唐揚げすると大変美味です。道の駅・萩しーまーとは、この隠れた実力派フグを、新しい萩の名産にすべくマーケティングを開始しました。試食用として30cm級の天然マフグ（みがき調理済・大人2〜3人前）2尾を、クール便送料込みで3200円（税別）で、年明けから全国発送する予定です。



今年のお歳暮は、 ふるさと萩の名産を。

お歳暮の季節となりました。お世話になった方のために、あれこれと商品選びをされている方も多いと思います。このページでは、冬の時期の贈答に適した萩の代表的な名産を紹介しています。

一夜干し製品



豊かな北浦で漁獲される旬の地魚を素材に、新鮮なうちに一夜干に加工した商品です。特に冬の時期に人気の高い魚種が、ふぐ一夜干と、のどくろ一夜干、そして名物キンタロウの丸干しです。その他、アマダイ開きやカレイの一夜干なども人気の魚種です。各製造元が3,000円程度からオリジナルのセットを用意しています。

粒ウニ



初夏に漁期が限定されているバフンウニを素材とした瓶詰め商品。1瓶で約30個のバフンウニを使用、ほとんどの製造工程が手作業のため、1本2,500円程度と、ちょっと価格の張る商品ですが、まさに逸品です。ちょうど製造後3か月以降が熟成が進み食べ頃となりますので、冬のご贈答にはピッタリの商品です。

ふぐ鍋



山口県名物のフグ鍋をセットにした商品です。最高級のトラフグを使用したものから、庶民のフグと呼ばれるカナトフグまで、価格帯にはバリエーションもあります。また鍋用だけでなく、てっさや湯引き、唐揚げ用のぶつ切りをセットした商品も人気があります。

萩の焼きぬき蒲鉾



エソなど地物の天然魚を原料とした、萩名産焼き抜き蒲鉾・ちくわです。当地独特の焼きぬき製法による弾力のある食感と、深い味わいが自慢の商品です。ご贈答の定番商品として、人気を集めています。

萩の地酒



萩地区には14軒の造り酒屋が今も伝統の製法を守り、美味しい地酒を生み出しています。いずれの銘柄も、阿武川の清浄な伏流水と、地元産の醸造米を原料とし、熟練の技で磨きを掛けた銘酒です。

■具体的な商品の内容や価格については、下記の萩の名産インターネットショッピングサイトをご覧ください。

アドレス <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/kau/online/>



on line shopping
産地直送便

萩の名産の数々を手軽にオンラインショッピング。贈答に最適な商品もたくさんあります。

- 電子本舗【はぎ】
萩商工会館内 青年部が運営するショッピングモール。
お惣菜の通販や、各店舗で使えるお得なクーポン券、賞券、ギフト券など……
- ふぐはな
夏みかんのさっぱりとした甘味とほろよい酸味を生かして、一口一口「萩乃雪」の発売……
- 萩しーまーとモール
「道の駅」萩しーまーとの総合ショッピングモール。
●萩ふるさとおさかな便
萩のお魚を全国発送……
- 萩ふるさと宅配便
萩の名産品の数々……
- みどりや
見島牛・見蘭牛の専門サイト……

萩発ふるさとおさかな便 <http://www.d1.dion.ne.jp/~sun0399/>
萩のお魚を全国発送できるサイト

萩ふるさと宅配便 <http://www.hagikura.com/>
萩の名産品の数々を全国発送しています

みどりや <http://www.mishimaushi.com/index.htm>
見島牛・見蘭牛の専門サイト

肴八商店 <http://www5.tiki.ne.jp/~sugihati/>
一夜干やいりこなどの海産物専門サイト

たつち商店 <http://www.joho-yamaguchi.or.jp/tatuchi/>
干物や海草など萩の海産物のサイト

電子本舗【はぎ】 <http://www.haginet.ne.jp/users/hagi/>
萩青年会議所が運営する萩の名産特産サイト

たけなか <http://www.hagi-s.com/takenaka/>
夏みかんゼリー「柑乃雪」など、夏みかん製品のサイト

萩しーまーとモール <http://www.kfdlab.com/~fish/>
「道の駅」萩しーまーとの総合ショッピングモール

彩陶庵 <http://www.saitoan.com/>
萩焼の専門サイト

山口地ビール株式 <http://www.hagibeer.co.jp/>
萩の地ビール「Cyonmage」の販売

株式会社柚子屋本店 <http://www.sonjuku.co.jp/>
地ビール「村塾」夏みかん加工食品、ぼん酢を直売

広島指月会総会

9月20日

ホテルグランヴィア広島(広島市)

40人出席。会長の楊井昭夫さん(昭和32年卒)は6月にホテルグランヴィアを退職され、8月秋に帰郷。(4ページにインタビュー記事)福引では出席者全員に夏みかん菓子やゴボウ巻きなど萩の特産品が当たりました。事務局は大阪に転勤された赤崎辰也さん(昭和54年卒)が引き続き、082・870・2081



全員に当たる福引

たちばな会総会

10月18日

萩商業高校体育館(萩市)

約430人出席。川原輝彦理事長、山根多野眞路校長の挨拶に続き、長年同窓会に携わった瀬上進さんが感謝状を授与されました。瀬上さんは「最近病気を患いまして、同窓会に参加できずうれしい。今後この同窓会を永く盛んにしてほしい。」と挨拶しました。懇親会では萩・松陰隊による「よさこい」が披露され迫力のある踊りで会場を盛り上げました。事務局0838・257・2227



懇親会での「よさこい」披露

東京指月会総会

10月18日

日本工業倶楽部(千代田区)

180人出席。今年は4月に新装された日本工業倶楽部で4年ぶりの開催。会場の大ホールは以前の風格をそのまま再現、旧交を温めるには絶好の場。国際放送賞を受賞された萩市在住の写真家・下瀬信雄氏(萩高17期)を迎え、懐かしい萩の風景が映っている受賞CM作品の上映がありました。新企画として、卒業後40、50周年を迎えた出席者(萩高15期、5期)にオリジナル萩焼・小水盤が贈呈されました。制作は松野龍司さん(22期)。今年の同窓会引き受けは25期(昭和48年卒業)。文部科学大臣に就任されたばかりの河村建夫代議士(萩高13期)も出席され、乾杯の首領。事務局は川淵正臣企画事務所内03・5835・4161



萩中卒業生の皆さん

山口指月会総会

10月18日

翠山荘(山口市)

64人出席。会長が齋藤正美さん(昭和24年卒)から東章さん(昭和32年卒)に交替。会長挨拶で「同窓会が大好きで毎年出席しています。同窓会に関わることで公私ともに色々と教わってきました。その恩返しのため、会長として頑張っていきたい」と抱負を述べました。懇親会では吉村昇二さん(昭和32年卒)の司会でビンゴが行われ、大いに盛り上がりました。事務局は山口県広報広聴課 西公男(昭和42年卒) 083・933・2570



新会長の東さん

会員からのお便り

めるぼっくす

■第53号には、萩市郷土博物館の樋口尚樹様が、私の先祖の樋崎彌八郎のことをお書きいただき嬉しく拝見いたしました。あの母・妹・妻に宛てた手紙は、私が宇部在任中に博物館に寄託したものです。父は号を鉄香といい、日本画家で、特に萩焼の諸先生がたや、高台亭等旅館・料亭と親しくしていたっており、先祖とともに川島の善福寺に眠っております。少年時代に遊んだ菊ヶ浜や、住んでいた東田町の界限が懐かしく、毎号貴紙を隅から隅まで読ませていただいております。(抜粋)

「ささなみ豆腐」プレゼント当選者から
(京都府京都市 栖崎 剛)

■萩ネットワーク、毎号楽しく読ませていただいております。9月号でご紹介くださった土山豆腐店のささなみ豆腐。豆腐大好き人間の私どもとして、東京で佐々並の美味しい豆腐の味が興味できればと思いますプレゼントに応募する次第です。
(東京都世田谷区 野崎 靖央)

■萩ネットワークの皆様、いつも萩の香りをありがとうございます。萩より大阪の方が長くなったのですが、やはり田舎の心が強くて、いつも萩と共に人生を送っています。4.5年に一回しか帰れません、以前帰郷の時、ささなみ豆腐を求めましたが品切れでありませんでした。ぜひ食してみたいです。

(大阪府大阪市 菊崎 厚子)
■名古屋に住んで15年、故郷はいいものです。萩ネットワーク楽しみに読んでいます。なかなか帰郷は出来ませんが、帰った時は必ず佐々並により、ささなみ豆腐を買って帰ります。今回の記事でますますささなみ豆腐のファンになりました。
(愛知県知多市 藤田 睦美)

合併協定項目の約半数を確認（合意）

萩広域市町村合併協議会（法定協議会）は今年の2月に発足、以来月2回程度会議を重ねてきました。10月9日には第11回目の会議が行われ、この時点で43ある合併協定項目のうち、合併の方式、地方税の取扱いなど21の項目が確認されました。

今後は、継続協議となつていく議会議員の定数及び任期の取扱いや新市建設計画などが協議され、全ての項目の確認が終了した後に合併協定書の調印、市町村議会の議決、県・国の手続きを経て、新市が誕生します。

◆8月8日 第8回合併協議会

下水道関係事業の取扱い

1市3町4村ではこれまで公共下水道、農業・漁業集落排水などの下水道整備事業を行っていますが、これらの事業については現行事業計画を踏まえ新市において計画的な整備を図る、使用料・負担金については現行どおりとすること、などが確認されました。

◆8月21日 第9回合併協議会

町・字の区域・名称の取扱い

字の区域及び名称は、現行どおりとなりました。

○合併後の具体的表記

【大字のある地域】

萩市大字川島○○番地↓変更なし

阿武郡阿武町大字奈古○○番地↓萩市大字

奈古○○番地

阿武郡福栄村大字福井上○○番地↓萩市大

字福井上○○番地

【大字のない地域】

萩市三見○○番地↓変更なし

阿武郡川上村○○番地↓萩市川上○○番地

住所表示では、川上村を除き現在の町村名が残りますが、新市の支所や小中学校の名称として、現在の町村名は残される予定です。

◆9月26日 第10回合併協議会

学校教育関係事業の取扱い

新市において新たに設置される教育委員会に対し、地域の声を反映させるための組織を当分の間、1市3町4村の区域ごとに設置すること、小中学校の通学区域は一部の区域で調整を図ったうえで新市に引き継ぐ、高等学校進学奨学金制度（貸与）については統一し、新市に引き継ぎ、合併までに貸与の決定を受けた方は現行どおりとすること、などが確認されました。



「萩国際大学」学生募集

平成16年度は、教育システムの全面的な見直しが行われ、従来の5コースを9コースに再編、「萩陶芸文化」「維新学」「観光経営」「ゴルフ文化」の4コースが新設されました。大学では、意欲的でフロンティア精神に溢れた学生を募集しています。

■平成16年度新入学生選抜日程（国際・経営情報学科共通）

入試区分	選抜方法	出願期間	試験日
推薦選抜	一般推薦	小論文、面接、書類選考	11月1日～11月25日 11月30日(日)
		12月1日～12月17日 12月21日(日)	
		3月1日～3月25日 3月28日(日)	
一般選抜	前期日程	学科試験、書類選考	1月8日～1月30日 2月8日(日)
		2月2日～2月20日 2月29日(日)	
	後期日程	小論文、面接、書類選考	3月1日～3月17日 3月21日(日)
		3月18日～3月31日 4月3日(土)	
大学センター試験を利用する選抜	前期日程	学科試験、書類選考	1月12日～2月6日
	後期日程	※萩国際大学の個別学力検査等は無し	3月24日～3月31日

大学案内、出願書類等の請求は、〒758-8585 萩市椿東浦田5000番地 萩国際大学学務課（0838・24・4000）へ

■倉本昌弘プロが講演とレッスン

～ゴルフ文化コース説明会開催～

10月5日に開催され、同コースに進学を希望する高校生や地元のアマチュアゴルファーら約100人が参加しました。



■大学祭「紅紫祭」

～テーマ「浦田5000番地物語」～

11月14日(金)・15日(土)に行われます。もちまき、ビンゴ、子ども太鼓、現金争奪クイズ大会、屋台（日本・中国・韓国・バンラディッシュの料理等）、フリーマーケット、音楽ライブなど多彩な催しがあります。



阿武選手、世界柔道V4報告

大阪市で行われた世界柔道選手権女子78kg級で4連覇を達成した警視庁の阿武教子選手が、出身地の福栄村役場と萩市役所を訪れ、野村興児萩市長、末永昇福栄村長らに優勝を報告しました。野村萩市長から「4連覇おめでとう」と祝福されると、阿武選手

は「決勝は連覇がかかっていたので、ちよつと肩に力が入った。優勝できてよかった」とホツとした表情を見せました。また、来年のアテネ五輪に向け、「4月の最終選考会に気持ちを緩めずに臨み、代表を勝ちとり、金メダルを目指したい」と決意を述べました。

国の観光交流空間モデル事業

西日本からは唯一

「萩・益田・津和野」地域を選定

国土交通省が今年度から実施する「観光交流空間づくりモデル事業」の対象地域として、9月12日、全国で8地域が選定され、西日本では唯一、「萩・益田・津和野」地域が選定されました。この事業は、国土交通省が所管するインフラ整備などのハード施策と、観光キャンペーン展開などのソフト施策の両面から、先進的な観光地づくりを総合的、重点的に整備するもので、全国17地域から応募がありました。

「萩・益田・津和野地域」の観光交流空間づくりのテーマは下表のとおり。計画期間は平成15年度からの5年間。益田市、津和野町と連携を強化した観光交通の改善や観光情報発信の強化、観光基盤の整備など、広域的な観光地づくりに向けての国の支援が実施される予定です。

日本の歴史・日本のふるさとに会おう ～中世・近世のロマンが息づくまち～

- ①明治維新、石見神学、鷺舞～日本の歴史・文化体験ゾーン～
近世の都市遺産ともいえる町並みや明治維新の歴史文化、伝統文化（石見神楽・大名行列）、伝統工芸（萩焼・和紙）など
- ②日本海、清流、里山～日本の田舎体験ゾーン～
- ③地域の人との出会い、触れ合い～住民の手による体験ゾーン～
- ④地域と地域が手を結ぶ～トライアングル観光ゾーン～
雪舟（益田）、喜多川歌麿・東州斎写楽等の6大浮世絵師（萩）、葛飾北斎（津和野）、安野光雅（津和野）、森英恵（益田）など

目指せ！プロの陶芸家

萩陶芸大リーグ

前期課程（8/18～27）終了

萩陶芸大リーグは、萩陶芸家協会が後継者の確保育成、業界の活性化を目的に今年初めて開催されました。前期課程は8月18日から10日間の日程で、全国各地から集まった50人の受講生が市内の萩焼窯元に10日間弟子入りし、陶芸家24人から熱心な指導を受けながら制作に励みました。

開講式では、受講生を代表して、楠本景子さん（23歳、京都市）と吉野瞬さん（17歳、広島市）が「一生懸命に土を練り、さわやかにろくろを回し、力いっぱい作品を作ります。窯の掃除や草むしりもいとません。よろしくお願ひします」とユーモアを交えての弟子入り宣言をしました（写真下）。

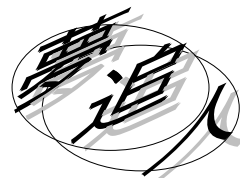


写真左から楠本さんと吉野さん

前期閉講式では、50人の受講生が作った茶わんやオブジェ等を協会会長の12代三輪休雪さんが「造形的で面白い」、「いい雰囲気だ」などという一ツツ講評しました。

楠本さんは「10日間は色々なものを見たり聞いたりし、たくさんのかつを吸収できて充実しています。窯たきが楽しみ」と自らが制作した茶わんを前に、笑顔で話していました（写真上）。他の受講生も「プロ作家と直接話ができて、多くの人と知り合いになれてよかった」、「生徒ではなく、弟子という関係で先生の仕事場へ入ることができたことが、仕事として陶芸をやっていくというイメージにつながった」などそれぞれに貴重な体験となったようでした。

今後後期課程（11月22～24日）として、萩市内の城山窯の登り窯を使用した窯たき実習を行い、前期課程で制作した作品を焼き上げます。



萩城下町盛り上げ隊

会長

吉井 貞夫氏（畔亭）

副会長

中原 省吾氏（俣宿天十平）

事務局長

白田 豊 氏（萩焼彩陶庵）

城下町エリアの商店主27人で組織される「萩城下町盛り上げ隊」が今年8月10日に発足式を行い、この度、その活動第一弾として「萩城下町 街歩き之図・其の一」が完成。萩市観光協会や役所の観光課など市内の主要スポットで無料配布、エリア内の飲食店やお土産店、そして横丁名や筋名が記載され、わかり易いと評判になっています。今回は「盛り上げ隊」の中心となって活動する、吉井さん、中原さん、白田さんの3人にお話を伺いました。



▲完成した地図を持って、吉井さんが経営する畔亭の庭園で。（左から 中原さん・吉井さん・白田さん）

街歩き之図は 連携プレーの産物

そもそのキツカケは、萩城下町エリアの入口にある中原さんの人力車小屋に、大きな手書きの城下町地図の看板があったこと。吉井さんがこの地図を見て、「手持ちの地図にしてもっと沢山の観光客に利用してもらえたら・・・」と思い立って、中原さんと白田さんに声を掛けたことが始まり。地図の作成資金捻出のためと、なるべく多くの方の理解と協力を得るために、3人で分担して、エリア内の商店主に声を掛けて廻りました。概ね9割の商店主が快諾、この9月末に地図が完成しました。原画は中原さん、毎日人力車を引いて城下町を見ているだけに正確この上なし、その原画を白田さんがパソコンで画像処理、それぞれの得意分野を生かした連携プレーの産物でした。今回は2万部を印刷、来年1月までには第二弾の地図を作成する予定です。

まだまだアイデア いっぱい

地図作成以外にも、この地区の盛り上げのため、いろんなプランを話し合っています。たとえば、現在復元工事中の久保田家。市の

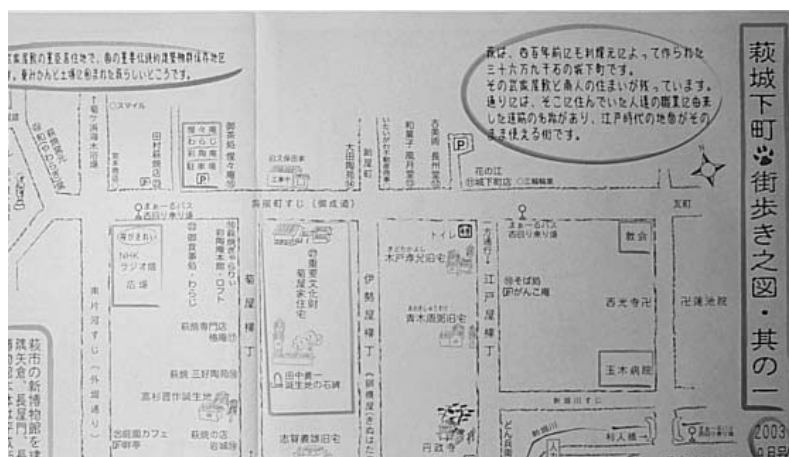
観光課でも活用方法を検討中とのことですが、例えば、江戸・明治にかけての貸衣装を用意し、観光客に着ていただくとか、地酒・地ビールを味わえるクラシックパブにするとか、定期的に落語などの催しを実施するとか、また、来年からは新博物館の完成で観光客が多くなるので、このエリア専門のガイドを常駐させるとか、アイデアは一杯できています。さらに、このエリアのイベントとして、ひな祭りに時期には、各商店が持っている古い雛人形などのお宝をお店に展示したりなど、地域の商店主や住民がいるいる協力することによって、楽しい催しが可能になると思います。

住民を含めて城下 町を盛り上げたい

現在の会員は地区内の商店主が中心ですが、一般の地区住民の皆様にも声を掛けて、一緒にこの地区を盛り上げていけたらという思いもあります。萩市全体と比べるとちょっとぼやけてしまっていて、ピンと来ないことも多いですが、自分の住んでいるこの地区単位での活動なので、身近な課題だし、一緒に知恵を絞っていくことで、住民の皆さんにも、必ずプラスになるように思います。実際、今回の「盛り上げ隊」をキツカケに、歩いて

いて挨拶をしたり、挨拶されたり、ちょっと立ち話をしたり、ということが非常に多くなってきた。人と人とながつながって、新しいものが生まれていく、小さなエリアだけに、そんなことを実感する毎日です。

▲萩城下町 街歩き之図其の一



■萩城下町・街歩き之図は年3回
発行予定。
問い合わせ 萩城下町盛り上げ隊
(0838・22・1755) 畔亭
吉井まで

萩陶芸家協会選抜展 世田谷美術展にて開催



▲出品した作品「緋華」について説明する萩焼作家・金子信彦さん

10月21日から26日まで、吉田松陰ゆかりの萩市・世田谷区友好交流事業の一環として、東京都世田谷美術館にて「萩陶芸家協会選抜展」が開催されました。

今年1月に同美術館で開催した萩陶芸家協会新鋭展（7人）に引き続き開催されたもので、萩陶芸家協会選抜の萩焼作家7人、金子信彦、植草達郎、小田光治、兼田佳炎、中村眞一、野坂和左、ペアティル・ペアソンの伝統の茶碗からオブジェまで、現代の萩焼が幅広く紹介されました。

▶妻素子さんに見守られて、作品を手に彩陶庵にて



坂さん（54歳）は、昨年9月に妻素子さんを白血病で亡くしてから一周忌にあたる今年、素子さんの生前の願いでもあった地元萩で初めての個展「素子に捧げるレクイエム 坂高麗左衛門展」（9月26日～10月2日）をぎやうい彩陶庵（萩市呉服町）で開きました。「萩で生まれ萩で育った妻は、自然が大好きでした。春は、桃色眩しい玄関先の満開の桜の下での御花見弁当を……。夏は、群青の日本海で泳ぎタケの火花大会……。秋は、茜色に燃える庭先のモミジ

の紅葉と秋吉台でススキ狩り……。冬には、プラチナに輝く深山でのスキーと……。日本の四季折々に、にこやかな妻の笑顔がありました。」



▲桜と月があしらわれた茶碗

素子に捧げるレクイエム

坂高麗左衛門展

萩開府 400 年特別月間 (平成 16 年 10 月 30 日～11 月 21 日)

■山口県立萩美術館・浦上記念館

●萩開府 400 年記念陶芸展（仮称）

10月30日（土）～11月28日（日）

■新博物館

●新博物館開館式 11月11日（木）

●新博物館開館記念特別展（仮称）「毛利輝元と萩開府」 1月11日（木）～12月10日（金）

■その他

●萩往還 1,000 人ウォーク

11月6日（土）、7日（日）

●毛利輝元公銅像除幕式 11月10日（水）

●時代絵巻「萩時代大パレード」 11月14日（日）

●萩・城下町サミット 11月21日（日）

原始土器の美展

11月1日～平成16年2月1日

本展覧会では、山東省博物館と山東省文物考古研究所が所蔵する大汶口遺跡の紅陶灰陶、黒陶、白陶、彩陶、といった土器106点を通して、中国文明揺籃期の製陶技術と造形力を紹介します。

開館時間 午前9時～午後5時休館日 月曜日

入場料 一般700円、学生500円



※11月1日～7日までの教育文化週間は無料
問い合わせ 山口県立萩美術館・浦上記念館
(0838-24-2400)

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

情報アラカルト

関東地区

■からたち会関東支部総会

からたち会関東支部総会を次のとおり開催します。

とき 11月15日(土) 午後3時

ところ 東京都新宿区西新宿新宿センタービル51階 シャトー51

■たちばな会関東支部総会

たちばな会関東支部総会を次のとおり開催します。

とき 11月28日(金) 午後6時

ところ 東京都港区南青山 はあ

といん乃木坂

■第35回日展

萩焼作家・吉賀将夫の作品をはじめ、日本画、洋画、彫刻などの作品が展示されます。

とき 11月2日(日) 24日(月)

ところ 東京都台東区 東京都美術館

■アイランダー2003

島の祭典で、萩諸島の魅力がPRされます。

とき 11月22日(土) 23日(日)

ところ 東京都豊島区池袋 池袋サンシャインシティ文化会館2階

■現代日本の陶芸と受容と発信

萩焼作家・兼田昌尚の作品が展示されます。

とき 11月20日(木) 25日(火)

ところ 東京都港区白金台 東京都庭園美術館

■12代休雪襲名披露展「シルクロード★」

今年4月萩焼の12代三輪休雪を襲名した三輪龍作氏(萩陶芸家協会会長)の襲名披露展。出品作品は奈良、正倉院収蔵のガラス碗「白瑠璃碗」をヒントに、自らの精神や美意識を注入して全面金彩に仕上げた作品40点。

とき 11月26日(水) 12月2日(火)

ところ 東京都中央区 日本橋高島屋

■守繁栄・徹父子展

萩焼作家・守繁栄、守繁徹の作品が展示されます。

とき 12月3日(水) 9日(火)

ところ 富山県富山市 富山大和

東北地区

九州地区

■望雲 光の共鳴

大屋窯の濱中史朗の陶芸作品

浜中孝子のシルバーアクセサリーが展示されます。

とき 11月20日(木) 26日(水)

午前11時 午後8時

ところ 福岡県福岡市中央区天神 警固神社内 望雲

山口県関係

■たちばな会下関支部総会

たちばな会下関支部総会を次のとおり開催します。

とき 11月29日(土) 午後6時

ところ 下関市彦島 南風泊活魚センター

■萩焼新進作家展

萩焼作家 濱中史朗、玉村信一、松尾優子を含む6人の作品が展示されます。

とき 11月5日(水) 10日(月)

ところ 下関市 下関大丸

■山口県立美術館の常設展

●萩の茶陶

とき 1月12日(月) まで

ところ 山口市亀山町 山口県立美術館

萩市関係

■彩陶庵の企画展

●野坂康起展(山口県指定無形文化財萩焼保持者認定記念)

人柄そのものの優しく温かい作品は、今まさに円熟の域に達しています。県内初個展。新作約40点

が展示されます。

とき 11月7日(金) 13日(木)

●三輪和彦個展

萩焼作家 三輪和彦の作品が展示されます。

とき 1月23日(金) 29日(木)

ところ 萩市呉服町 ぎやらい彩陶庵(0838・253・110)

■ギャラリー草莽の企画展

●モノクロズム展

萩生まれ萩育ちの井町律子、田村覚志による初めての共同展。銅版画、木版画と線画の作品約20点を展示。

とき 11月8日(土) 16日(日)

ところ 萩市土原 長屋門珈琲力フェスティカル内ギャラリー草莽

(0838・262・933)

版画「桜舞う萩城」販売

萩市在住の画家藤崎恒頼さん(行動美術協会会員)が指月公園の萩城を描いたデジタルリト版画「桜舞う萩城」(額付)を販売します。

藤崎さんの略歴は、昭和59年 安井賞展 佳作賞受賞、平成12年 山口県文化功労賞受賞。

定価 6万円 販売部数 100部
問い合わせ 行動美術協会会員・藤崎恒頼
アトリエ(0838・26・0605)



萩焼作家・岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、松尾操風の作品が展示されます。

金沢展	11月7日(金)~11月16日(日)	石川県立美術館
岡山展	11月20日(木)~12月7日(日)	岡山県立美術館
松江展	12月10日(水)~12月24日(木)	島根県立美術館
高松展	1月5日(月)~1月18日(日)	香川県文化会館
広島展	1月21日(水)~2月8日(日)	広島県立美術館
福岡展	2月11日(祝)~2月16日(月)	福岡天神岩田屋
仙台展	2月24日(火)~2月29日(日)	三越仙台店

第50回 日本伝統工芸展

出版情報

■江戸お留守居役の日記 山本博文著

由井正雪事件や支藩との対立。萩藩士福岡彦右衛門の日記に、藩の命運を賭けて奮闘する外交官の姿を読む。

定価 1150円

出版 講談社学術文庫

■吉田松陰の人間観 森田惣七著
松陰が松下村塾において大きな教育的成果をあげ得た根源の力とは何か。松陰の人間観を研究した書。

115ページ。

定価 800円(税別)

出版 文芸社

■日本の町並みⅡ 中国・四国・九州・沖縄(3冊シリーズの第1弾)

萩からは堀内地区の土塀と夏みかん、石橋や板垣いの洗い場などに昔ながらの面影を留めている藍場川などの風景を紹介。
171ページ。

テレビ・映画情報

定価 2400円(税別)
出版 平凡社

■第16回東京国際映画祭「ほたるの星」上映

萩市の明倫小学校もロケ地として撮影が行われた映画「ほたるの星」が東京国際映画祭でコンペ作品として上映されます。

とき 11月8日(土) 午前10時30分
ところ オーチヤードホール(渋谷)

■「あずみ」ビデオ化決定

今春大ヒットを記録した上戸彩主演映画「あずみ」が11月21日にビデオ化されます。

「あずみ」に出演した萩出身の俳優松本美さんは、来春NHKで放映されるドラマ(浅田次郎「シエラザード」原作、反町隆史主演)の出演が決まり、現在国内外で撮影中。

「昭和19年度生還暦記念植樹」のお願い

～昭和19年4月2日より20年4月1日生まれまでの皆さんへ～

来年、昭和19年度生の還暦を記念し、記念植樹の企画をしました。

出費多々のことと思いますが、ご賛同のほどお願いします。

植樹時期 萩開府400年記念事業の中にて時期を萩市に決定してもらう

植樹場所 萩市都市計画課と相談し決定

集金方法 一口3,000円。郵便局(口座番号01330-4-81307 昭和19年度生誕還暦記念植樹会)より振込。

期限 11月30日

問い合わせ 昭和19年度生還暦記念植樹会(萩市唐樋町69-2 ☎0838・26・4141)

萩・文学散歩

高樹のぶ子



萩ネットワーク9月号でご紹介した「罪花」の著者高樹のぶ子さん、10月3日萩おもてなし大賞表彰式(萩ケーブルネットワーク×主催)の記念講演会の演壇に立ち、「やまぐちの心」と題して講演を行いました。

高樹さんは、今回の小説で取り上げる萩出身の画家高島北海について次のように語りました。

「高島北海はフランスのナンシーに3年間留学し、アールヌーヴオーに多大な影響を与えました。当時開国して間もない日本と、ヨ

田中市郎の貴重な標本あるき 荒俣宏の不思議歩記

萩市民大学教養講座で演題に立った作家・翻訳家の荒俣宏さんが、毎日新聞の夕刊連載「荒俣宏の不思議歩記」(8月9日)で、萩の博物館について次のように語っています。

「萩といえば、吉田松陰はじめ幕末の志士たちの生家が隣り合っているという途方もない街だ。観光客の目もついついそちらへ引張られてしまうのだが、この市立博物館は歴史文化系でなく理科系の出目を持っている。そもそも萩の博物館の始まりは、私設「田

中博物館」だった。館長の田中市郎は明治10年生まれ。長じて旧制萩中学校教諭となり、博物科の講義を担当した。かたわら魚市場に日参して数々の珍魚を発見し、標本を作成したのだが、日本海では初記録といわれる貴重な種類がた

くさん含まれていた。昭和12年、念願の私設博物館を土原に建設した田中は、ますます博物館研究にのめりこんだのだが、熱中しすぎたためか風邪をこじらせ、昭和21年に亡くなった。市は収集品の寄贈を受け、あらためて熊谷町に科学博物館を設置することにした。これが現在の「萩市郷土博物館」である。



田中市郎著「珍魚の譽」は萩市郷土博物館(0838・256447)にて2000円(送料1600円)で販売中

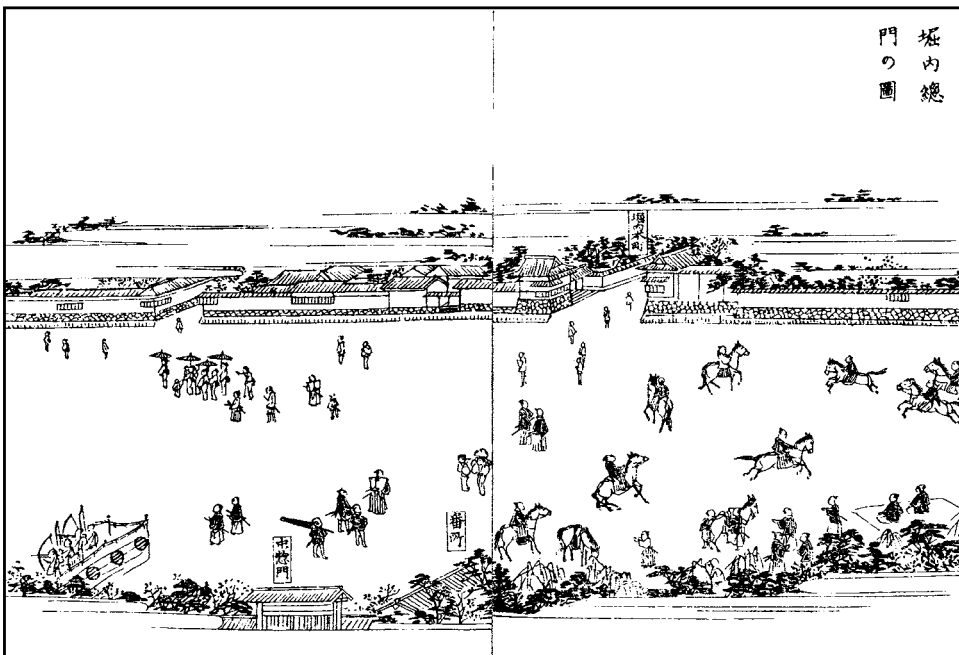
じゆうに知れわたったにちがいない。(略) 何といつてもすばらしいのは、深海魚リュウグウノツカイの完全標本だろ。(略) 田中市郎が萩に残した完全な標本は、来年新設される市立博物館で展示公開されるという。」

新博物館建設地、

大野毛利家と屋敷地の変遷(1)

大野毛利家屋敷地の位置

平成16年(2004)11月11日、萩市の新しい博物館が開館します。建設地は堀内355番地で、旧萩城三の丸内にあり、萩藩主毛利家一門の大野毛利家の上屋敷跡にあたります。



堀内惣門の図(『八江萩名所図画』)

三の丸(堀内)は、萩城外堀の内側一帯の区域を占め、藩の諸役所や重臣たちの上屋敷が建ち並び、いわば藩の政治の枢要な地区となっていました。萩城三の丸と城下とを区画する外堀を渡ると、中の惣門があり、惣門をくぐると、幅約24mの大馬場を隔て、すぐ目の前に大野毛利家の屋敷地が控えていました。

幕末期に描かれた『八江萩名所図画』を見ますと、当時の様子がよくわかります。中の惣門の右手に、番所があります。番所には鉄砲・槍・捻など武器を常備しており、ここで三の丸に出入りする通行人を監視していました。特に午後6時から午前6時の夜間は門を閉め、通行手形を提示したうえで、往来が許されていました。中の惣門前に広がる大馬場は、文字どおり当時武士の嗜みの一つであった馬術の訓練を行っていました。それとともに、火災発生時に三の丸への延焼を防ぐ防火帯ともなっていたと考えられます。

中の惣門から大馬場を隔てて、まっすぐに西にのびる通りが堀内本町です。実は、堀内本町は江戸時代には現在の道幅よりも約2倍の広さがあり、参勤交代の道筋にもあたり、三の丸のメインストリートになっていました。明治維新後、不用となった堀内の広大な武家屋敷地が桑畑や夏みかん畑に転換していく中で、幅の広い道路も通行量が激減したため不用となり、道幅の半分を畑地として囲い込み利用したのです。

再び『八江萩名所図画』に目を転じますと、堀内本町と記された右手が大野毛利家の屋敷地となります。つまり大野毛利家は、三の丸のメインストリートであった堀内本町の通りに面して立地していました。大野毛利家の南側は堀内本町に面しており、ここが屋敷地の表側となっていました。屋敷地の裏である北側は堀内後町、東側は大馬場、西側は猫町にそれぞれ接していました。大野毛利家の屋敷地は、東西南北とも道路に面した街区割りの一面を占めていたのです。その広さは、宝暦元年(1751)に描かれた城下町絵図によりみると、表の南側が62間(約122m)、裏の北側が64間(約126m)、

東側が65・5間(約129m)、西側が65間(約128m)ほどありました。

『八江萩名所図画』には、大野毛利家屋敷地の左端に建物が描かれています。この建物は、大野毛利家屋敷地の南東隅に位置していた隅矢倉で、昭和20年代の半ばごろまで残っていたそうです。この隅矢倉は新しい博物館の付属施設として、古写真や城下町絵図に描かれた姿図、聞き取り調査などをもとに、同位置に復元されました。

さて、隅矢倉の西側、堀内本町の通りに面して、大野毛利家の正面入り口がありました。山口県文書館には、『浦日記』という江戸時代の終わりに明初年にかけて記された萩藩重臣の浦家の日記が所蔵されています。この日記の弘化2年(1845)に、大野毛利家の正面入り口建物の簡単な立面図が描かれており、長屋門の形式であることがわかりました。新博物館の敷地内へ入る正面入り口の建物も、この図から推測して長屋門の造りとしています。

『八江萩名所図画』に見られますように、大野毛利家の屋敷地は、萩城三の丸の入り口で、三の丸のメインストリートであった堀内本町に直結する中の惣門に對峙しており、まさに萩城内の要衝の地に位置していたといえます。

萩市郷土博物館 樋口尚樹

Topics

萩開府400年記念 年賀はがき 11月10日発売!

萩市では来年の萩開府400年を記念して、「絵入年賀はがき(お年玉付)」を発売します。図柄は2種類カラー、1枚50円。
予約受付は11月1日から、申し込みは萩ネットワーク協会事務局(0838・25・3178)へ。

「毛利敬親大名
行列錦絵」



「田床山からの
萩市街地」

